

令和7年度 看護小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 令和8年3月12日

法人名	株式会社ふるさと	代表者	西村 さとみ	法人・事業所の特徴	当事業所は同一法人内に居宅介護支援、地域密着、認知症対応通所介護、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護を有しており、認知症の初期の段階から、ご利用者・ご家族と馴染みの関係を構築出来るよう支援を行っています。「利用者本位」「自立支援」を「生活の視点」から見る取り組みを行っており、地域との繋がりを断ち切らないような支援を日々奮闘しています。
事業所名	ふるさとカクテル	管理者	加藤 幸恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	6人	0人	9人	2人	人	23人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の視点、介護士の視点からアセスメントし、それぞれの特徴を生かしながらケアに生かしていく。 きめ細やかな対応をすることで、在宅生活に不安がある、退院時には在宅生活が困難である利用者の方でも安心して自宅で生活できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護士、看護師のそれぞれの職域の利点を生かし、連携しながら日々のケアに生かしていくことができた。泊まり、訪問、通い、看護サービスを柔軟に対応していくことで、難病、終末期、複雑な疾患を持ったご利用者様などの様々な在宅サービスを支えることができた。 		事業所自己評価において、利用者に対する支援はなんとかできている状況である。また、看護・介護の協働も行えている。しかし、地域に対しての関りが弱いという結果となった。来年度は、地域に対して、職員が関りを持つように意識する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 玄関だけでなく、利用者様の方が過ごす場所に季節感を持たせるしつらえを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 部屋の家具の配置などを工夫し、居心地のよい空間づくりを行った。整理整頓を定期的に行うようにした。担当を一人決めて、レクで季節の飾り物を利用者様と一緒に作成したり、飾ったりすることで1年を通して季節感を感じることができた。 		職員主導では無く、利用者さんの意見を伺い、利用者さん自身に季節の設えを行って頂く。現在、行っている5S活動を継続する。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方からいただいたアドバイスを生かした外出支援を行う。また、地域のイベントの情報を頂き、外出する機会を増やしていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に散歩にでかけることができた。買い物などにも行くことができた。 地域のイベントにはあまり参加できなかった。 		HP等通じ、事業所の活動を地域の皆さんへ発信していく。コロナ以前に行っていた、多世代交流を行いたい。地域の皆さんに、法人として目指している共生社会についてご理解いただけるよう、研修の開催等、情報発信を行って行く。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>・現所在地域資源を使って支援している人だけでなく、他の利用者の方にもできるよう、生活歴などを把握し計画を立てていく。</p>	<p>・様々な理由で地域の集まりなどに参加できなくなったご利用者様に対し、訪問サービスを利用しながら再度参加できるよう支援を行った。 ・本人のなじみのスーパーや理髪店へ行くことで地域とのつながりを断ち切らないようにした。</p>		<p>来年度も継続し、これまで生活してきた地域とのつながりを大切にする。委員の皆さんから頂いた情報を基に、地域の行事に、利用者の皆さんと共に参加出来るよう、取り組んでいく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・運営推進会議を活かし、地域のニーズを把握する 把握したニーズを具現化していく</p>	<p>委員の皆様にご協力頂き、定期的開催する事が出来た。特に、当事業所は、有事の際、法人としての避難所となる為、防災・災害対策について周知できたことは大きいと感じている。 また、会議において、地域での色々な情報を頂き、参加させて頂いた。地域の中の施設であると実感する事が出来た。</p>		<p>来年度も定期的に運営推進会議を開催し、委員の皆さんとの意見交換や情報共有を行う。 地域との関係づくりを大切にしながら、地域のニーズを把握し、支援や取り組みに反映していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・BCPは引き続き、研修を通して繰り返し学ぶ機会を作っていく。 自家発電の使い方の研修を行い、有事の対応が出来るように周知していく。</p>	<p>BCP策定と併せ、自家発電・貯水槽の活用について、地域の皆さんにも周知する事が出来た。 事業所として、火災や地震などの色々な有事に対する避難訓練を定期的に行っている。</p>		<p>来年度、有事を想定し、より具体的な訓練を行う。 (対策本部設営 備蓄品運搬 簡易トイレ設置等) 法人としての防災対策を地域の皆さんに発信していく。</p>